

様式第3号（第8条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
副園長	<p>1 開会の言葉</p> <p>これより、令和4年度第2回幼稚園評議員会を開会いたします。</p> <p>なお、本会議は、加須市審議会等の会議の公開及び会議録の公表に関する要綱に基づきまして、会議を公開することとなっておりますこと、また、本日の会議の会議録につきまして、後日、花崎北幼稚園のホームページで公表いたしますことをあらかじめご報告申し上げます。</p>
園長	<p>2 あいさつ</p> <p>10月1日には、運動会にお越しいただきましてありがとうございました。本日は、第2回の評議員会でございますので、経営の概況等につきまして、成果と課題を踏まえた中間的な報告をしてまいりたいと考えています。また、報告・説明後は、4歳児いちご組と5歳児ほし組の保育活動の様子をご覧いただきますのでよろしくお願いいたします。</p>
園長	<p>3 説明</p> <p>(1) 経営概況等についての発言</p> <p>① 幼稚園教育推進の視点</p> <p>私は、保護者の皆様に、幼稚園教育の本質について御理解をいただくことが、保護者の方と連携して教育の効果を上げるための前提条件になると考え、毎月の園だよりに幼稚園教育に関わる考えや情報を示すことをしています。まず、そのいくつかを紹介し、ご理解をいただきたいと思ひます。</p> <p>【遊びを通した「主体的・対話的で深い学び」の具現】</p> <p>少し専門的な話になりますが、小学校以降の学校教育では、今、「何を教えるか」という知識の質や量はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という学びの重要性が指摘され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善が進められています。しかし、よく考えてみると、幼稚園で進めている学習（遊び）は、「幼児が自分の意志や判断で主体的に身の回りの環境とかかわっていくこと」や「思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け入れたりしながら、自分の『やりたい』を実現していくこと」そして、「一つの遊びの深まりが、次の身近な環境や友達とのかかわりに発展していくこと」から、そのプロセス自体が、まさに「主体的・対話的で深い学び」になっていると言えると思うのです。私たちは、こうした視点を持ちながら、日々の保育の重要性を確認しながら教育活動を進めています。</p>

【「失敗」は、自立のための学習】

私たち大人は、子供たちの「転ばぬ先の杖」になりがちですが、結果を管理するだけでは、子供たちから失敗する権利を取り上げ、自発性や自立性を奪うことになります。失敗した時に「どうして、できなかったのだろう」と、成功した時に「どうして、今度はできたのだろう」とじっくり考えさせることが、自立に向かう大きなエネルギーになります。

子供たちは、失敗と成功を繰り返して成長していきます。家庭でも、幼稚園でも、子供たちの行為が成功体験に繋がるように教育を進めますが、その過程にある「できなかった」「思うようにならなかった」という経験に大人がどう関わるかが、成長を促す鍵になると思います。

【何でもできる年長さん、何にもできない1年生】

「何でもできる年長さん、何にもできない1年生」 私は、ちょっと皮肉を込めて、こんな表現を使うことがあります。年長の子供たちは、年少さんに給食の手順を教えながら、準備のお手伝いをしたり、園舎の掃除や園庭の除草などにも取り組んだりしています。しかし、小学校に入学すると、1年生は、「学校生活を知らない」ことから「何もできない」を前提に援助を受ける立場になりがちです。わからないことや知らないことは、教えなければなりません。しかし、そのことさえ解決すれば、後は、自分で考えて行動することができるはずです。幼稚園では、発達段階を考慮しながら3年間を通して、小学校生活をスタートさせるために必要な「自分で考える経験」や「自分で判断する経験」を積み重ねています。

子供たちにとって、0からのスタートはありません。「今できること」を生かして「新たなこと」にチャレンジさせることが、子供たちの成長を促すことになると考えます。

② 教育活動の成果

諸行事をはじめとする日々の教育活動は、それ自体は、あくまでも方策・手段であり、目的は、子供たちの成長を促すことにあると考えています。ですから、私たちは、活動させる中で子供たちがどのように変わっていったかを見極めることをしています。

【運動会（10月1日）】

達成感を味わうことによる成長の姿が見られました。

例えば、年長のリレー。初めは、自分が走ることにしか興味がなく、チームの勝敗には、全く関心がない様子が見られましたが、練習を重

ねていくうちに、チームの一員として、自分が全力で走ることが勝敗に繋がることに気付いたことで、全力で走る、協力する、応援するといった姿が見られるようになっていきました。本番では、勝って歓喜する姿や負けて涙する姿の中で「もっとやりたい」という声が上がっていました。こうした活動は、これまでにない経験であり、目標達成のために力を合わせるといった視点において小学校以降の学習に繋がるものと捉えています。

【年中・長の遠足（10月13日）】

遠足を終えた後に、遠足での体験を製作や遊びで表現する活動を行いました。その過程は、まさに、主体的・対話的な学びと言えます。そして、こうした活動の発展（深い学び）として、遠足での体験を再現した遊び（遠足ごっこ）を年少の子供たちに提供することを行いました。

【花崎北小4年生との交流（10月25日・26日）】

加須東中3年生との交流（11月8日・11日）】

小中学生との交流は、コロナ禍の影響で3年ぶりの実施となりました。在園児にとっては、初めての体験でした。コミュニケーションに溢れた様々な遊びを通して、人とのかかわりを広げることができました。

【サツマイモの収穫（10月27日）】

根を辿って土の中のサツマイモを見つけて引き抜いていく体験は、子供たちにとって収穫の喜びを実感できる貴重なものでした。食の楽しさを知る機会にもなりました。

【持久走大会と朝のかけ足の取組（11月1日～12月2日）】

11月18日に持久走大会を設定し、その前後で朝のかけ足を継続的に実施していきました。最終的には、年長の子供たちは、3分間、年中の子供たちは、2分30秒間、全力で走れるようになりました。「走るのが好き」「もっと走りたい」という声が聞かれました。また、年中・長の子供たちの全力で走る姿に触発されて、年少の子供たちも、継続して走ることを楽しむようになりました。

【餅つき（11月30日）】

保護者の方の協力を得て、釜戸で炊いたもち米を、臼と杵を使ってつき、鏡餅をつくる活動を行いました。これも、3年ぶりの取組です。

	<p>子供たちは、全ての過程を見た後で、餅つきを体験しました。粒状のもち米が、餅になった様子に驚きの声を上げていました。体験を楽しみ、伝統行事を理解することができました。</p> <p>教育活動の成果のいくつかを紹介しましたが、資料にある通り、この他にも、秋の木の実を使って製作した物で交流を広げる「お店屋さんごっこ」等、それぞれの活動を通して子供たちの成長を見ることができました。実施後に改善点も明らかにしていますので、今後に生かしていきたいと考えています。</p> <p>(2) 令和4年度「幼稚園評価」の実施についての発言</p> <p>「経営の方針」に基づいた項目について、その成果を評価し、課題や改善点を明らかにするために、1月に「幼稚園評価」を実施します。お示ししましたのは、その資料となる保護者へのアンケートの内容です。1月上旬に配布し、結果を考察した上で、今年度の経営・運営の状況を総合的に評価し、来年度の方針や改善点を明らかにしていきます。</p> <p>評議員の皆様には、2月の第3回の評議員会の際に評価の結果や改善点をお示ししますので、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>(3) 次年度の展望についての発言</p> <p>まず、令和5年度の見込み園児数についてですが、年長児「12名（男児5名・女児7名）」年中児「15名（男児5名・女児10名）」年少児「24名（男児15名・女児9名）」合計51名となっています。年少児については、24名の内、学区内の園児は4名です。園児数は、減少の傾向にあります。</p> <p>また、新型コロナウイルスの感染予防については、引き続き配慮を必要としますが、教育活動の運営等については、可能な限り通常の常態に戻して、教育の効果を高めていきたいと考えています。</p>
園長	
	<p>(4) 3学期の主な行事についての発言</p> <p>2月8日・9日の生活発表会、同じく2月9日の第3回評議委員会、2月21日の入園説明会、3月17日の修了証書授与式等について、資料をもとに説明する。</p> <p>4 保育視察</p> <p>5 協議（意見交換）</p>
主任教諭	
佐藤 評議員	<p>特別な支援を必要とする幼児への支援等の在り方について質問</p> <p>社会では、保育園の先生の子供への関わり方が問題になっていますが、例えば、激しい動きの見られるお子さんに対しては、どのように対応しているのですか。</p>
主任教諭	<p>危険な行動があった場合には、もちろん注意をしますが、その際も、</p>

松永 園長	<p>子供にわかるように心がけながら、まずは、よく考えさせて、その後でいねいに指導をしています。</p>
佐藤 評議員	<p>教員は、特別な配慮が必要な子供に対して、その援助の在り方等について研修を積んでいるので、十分に理解しています。そして、特別な子ではなく、その子に合った支援を必要とする子と捉え、どのように活動させて、どのように成長をさせていくかを考えながら個を大切にした指導を行っています。</p>
主任教諭	<p>英語を使った活動についての質問</p> <p>幼児期に英語に触れることも大切と考えますが、幼稚園では、教える場面があるのですか。</p>
園長	<p>英語を教えるという場面はありませんが、英語を使った遊びをとおして体験させることをしています。</p>
伏見 評議員	<p>PTA と外部ボランティアで構成する「きらきらベリー」で、英語に興味をもてるような活動を計画的に行っています。こうした経験を小学校3学年以降の外国語活動や外国語科の学習に繋いでいくことが、将来的な英語力の向上に繋がっていくものと考えています。</p>
主任教諭	<p>子供たちの成長についての意見</p> <p>子供たちは、1学期、そして、運動会の頃と比べて随分、変わったな、成長しているなと感じました。子供たちが積極的になり、物怖じせずに活動しているように思いました。</p>
松井 評議員	<p>子供たちの中には、積極的に行動することが苦手な子もいますが、担任は、つねに、自分の気持ちを安心して表現できるように配慮しながら保育を進めています。</p>
園長	<p>学級経営と子供たちの成長についての意見</p> <p>人数が少ないですが、どのクラスも、確実によい方向に向かっていると思いました。子供たちが、何にでも夢中で取り組み、本当に楽しそうに感じました。</p>
副園長	<p>子供たちは、それぞれに苦手なことがあると思いますが、苦手なことにも、楽しみながら一生懸命に取り組めることが、本園の子供たちのよさだと思います。1ヶ月間ほど持久走を行ってきましたが、子供たちの中には、1週遅れ・2週遅れとなる子もいます。でも、遅れてしまった子も走ることを嫌がるのではなく、「走って楽しかった。もっと走りたい」と言って満足しています。そのことが、成長につながるし、とても素晴らしいと感じています。</p>
副園長	<p>6 閉会の言葉</p> <p>本日は、たいへんお世話になりました。以上をもちまして、令和4年度第2回幼稚園評議員会を閉会いたします。次回は、令和5年2月</p>

9日を予定しております。よろしくお願いいたします。

会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和4年12月12日

署名 副園長 栗城 敦志